

銀行の変貌

銀行が変わりつつあります。

昔は銀行マンといえば、人もうらやむ安定職業でした。信用力もありました。ところが、メガバンクが大規模なリストラを公表する等銀行の状況が変わってきています。

以下は、報道に基づく、あくまで個人的な感想です。

メガバンクは、今後そろって大規模な店舗の統廃合や人員・業務のスリム化に本腰を入れることを発表しました。みずほFGの1万9000人(今後10年間での実数)に加えて、三菱UFJFGで9,500人(業務量換算)、三井住友FGで4,000人(業務量換算)、3社合計で3万2500人も的人员が浮きます。

なぜこうなってしまったのでしょうか？次のような背景があります。

【超低金利(マイナス金利)】

これまで銀行は国債で資金運用してきましたが、昨今の国内低金利では逆ザヤになっているので国債に代わる運用先が見つかりません。外債に手を出してみたものの失敗して、返って損を大きくしてしまいました。

【金利競争】

サービスの差別化といわれても、簡単なことではありません。結局は、貸出金利で競争することになります。地銀の場合、従来の地域テリトリーも崩れ、各行が入り乱れて激しい金利下げ競争を繰り広げます。

【事務作業のIT化】

将来的に、AIやフィンテックの普及が確実に見込まれます。それよりも近い将来、行内事務や融資業務は、もはやITが取って代わることになります。



一方で、営業重視の姿勢が表面化してきました。

融資に際して、債務者(お金を借りる人)の財政状態を良く見せるように改ざんをして、審査部門の反対を押し切って巨額の融資を実行する地銀がありました。

また、融資に伴って多額の手数料を要求する地銀も出て来ました。この場合の債務者は、手数料を多額に払っても融資がほしいのですから、基本的に返済能力は十分ではないでしょう。

いずれの場合も、後になれば返済が滞って問題が生じることは明らかにもかかわらず、実行されているのです。

「今、利益がほしい。」

超短期の視点に、なってはいないでしょうか。

銀行はどうなって行くのでしょうか。